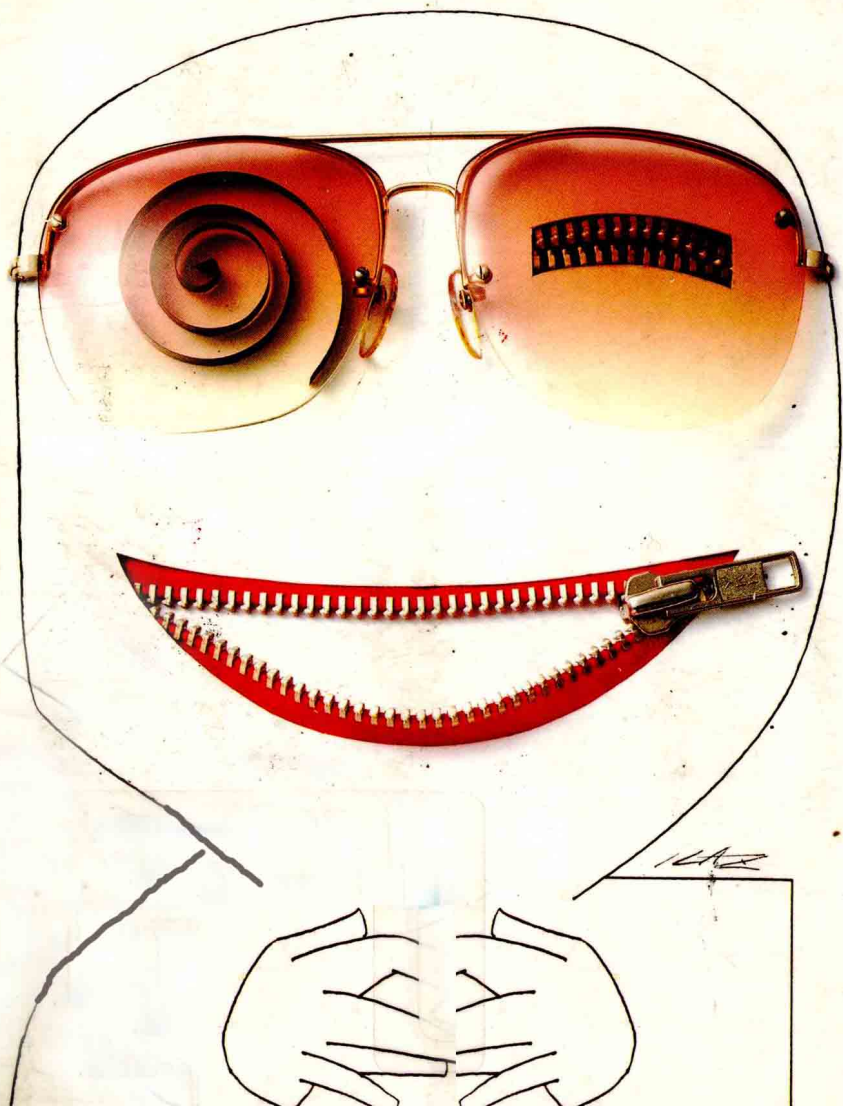


アメリカン・ジョークの世界

《カテゴリーでさぐる笑いの構造》

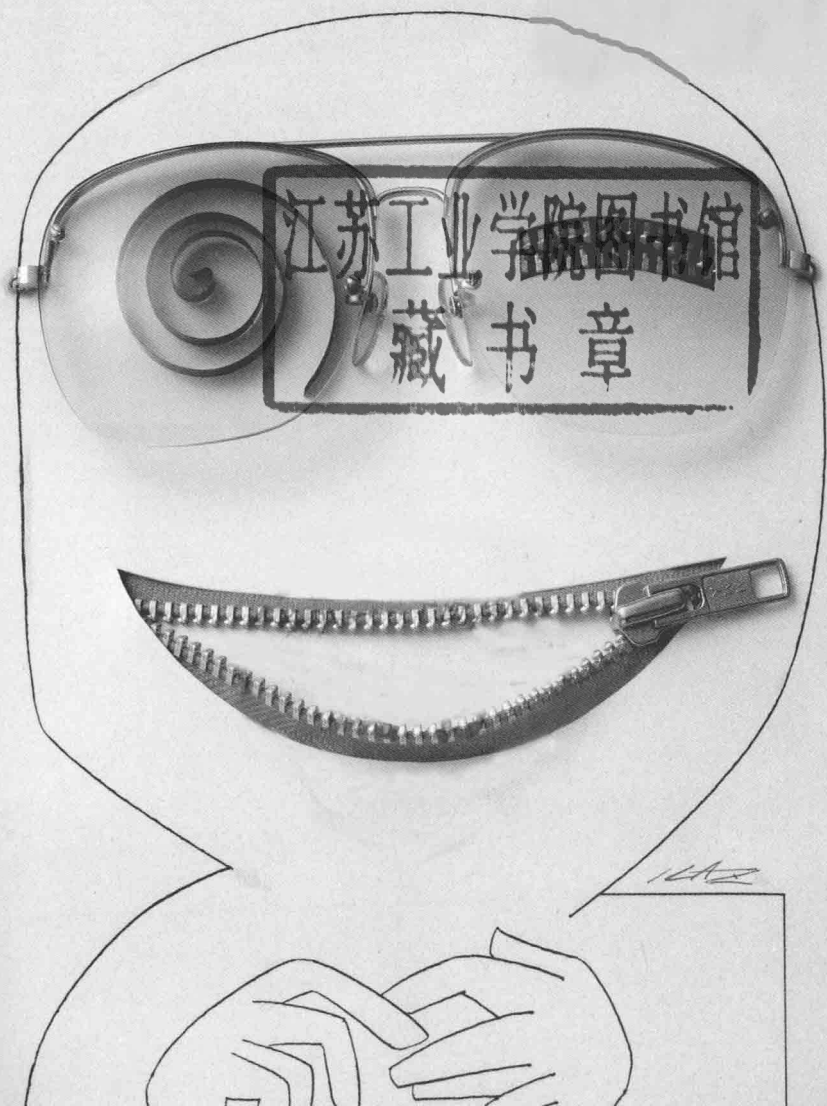
杉田 敏著



アメリカン・ジョークの世界

《カテゴリーでさぐる笑いの構造》

杉田 敏著



著 者 略 歴

日 敏 (すぎた さとし)

1944年東京・神田生まれ。66年青山学院大学経済学部卒業後、「朝日イブニングニュース」の記者となる。71年にオハイオ州立大学に留学、翌年修士号（ジャーナリズム）を取る。「シンシナチ・ポスト」経済記者から、73年にPR会社バーソン・マーステラのニューヨーク本社に入社。日本ゼネラルエレクトリック（株）副社長、（株）電通バーソン・マーステラ副社長などを歴任。（株）エトス・プラス代表取締役。人事・広報コンサルタント。NHK ラジオ『やさしいビジネス英語』講師。著書に『NHK 語学 COMIC やさしいビジネス英語』（日本放送出版協会）、『英語で読むおもしろ和洋小ばなし』（三笠書房）、『英語会話表現辞典』（旺文社）、『企業紹介の英語』（ジャパントイムズ）など多数。

アメリカン・ジョークの世界

カテゴリーでさぐる笑いの構造

1990年12月10日 初版発行

1991年8月20日 第2刷発行

著 者 杉田 敏

© Satoshi Sugita, 1990

発行者 太田 良久

発行所 株式会社 ジャパン タイムズ

〒108 東京都港区芝浦4丁目5番4号

電話 東京 (03) 3453-2013 (出版営業)

3453-2797 (出版編集)

振替口座 東京 9-64848

印刷所 株式会社 厚德社

装丁 クロイワ・カズ

定価はカバーに表示してあります。

ISBN4-7890-0546-1

まえがき

いろいろな国民がジョークにどう反応するかというジョークがあります。

フランス人はジョークを半分聞いただけで笑う。ドイツ人は翌日笑う。イギリス人は二度笑う—ジョークを聞いたとき儀礼的に、それから後でその意味が理解できたとき。アメリカ人は笑わない。すべてのジョークを知っているから。

もちろん、ジョークの語り手の国籍によって国名は変えられることもあります。アメリカ人は本当によくジョークを知っていて、楽しんでます。では、日本人の場合は—こう言えるのではないのでしょうか。

日本人にジョークを言うときは、少なくとも24時間前に警告を発すること。「明日の今ごろ冗談をいうからね」とやっておけば必ず笑ってもらえる。

国際社会において、日本人を修飾してよく使われることばは、「緊張度が高く、閉鎖的」「社交性に乏しく、退屈」「真面目で勤勉だが、人間的な面白味がない」「完全を求めすぎる」などです。こうした特質をもった民族は、ジョークを楽しむことが下手です。

アメリカでは、ユーモアのセンスは企業で要求される資質として、かなりウエイトの高いものとされています。人事考課や昇進の条件としてあげられることも、しばしばです。

しかしそもそも、アメリカ人のユーモア感覚は、アメリカという風土の上で、アメリカ英語をコミュニケーションの手段と

して生まれてきたものです。われわれ日本人にとって、アメリカン・ジョークを理解し、笑うためには、アメリカの風俗、習慣、ことわざ、歴史、迷信、生活様式それに俗語、しゃれ、同音異義語やかけことばなどを知らなければなりません。

つまりアメリカ人なら誰でも常識としてもっている知識を、もっていないがためにジョークがわからないという場合も多いのです。

アメリカン・ジョークを、そうした背景なども含めて真面目に解説し、科学的に分類した書物はほとんど皆無です。そこで本書では、アメリカ人が好んで口にするジョークを *Psychology Today* の分類法によって、silly jokes, wordplay jokes, hostile jokes, ethnic jokes, sexual jokes の5つのカテゴリーに分け、それぞれのジョークの「構造」について考えてみました。

コミュニケーションの手段としてのジョークに興味をおぼえ、収集を始めてからかれこれ四半世紀になります。その間、新聞や雑誌からの切り抜きなどの資料はファイリング・キャビネット一杯にたまり、集めた本は200冊近くにのぼりました。本書をひとつの区切りとして、これからはコミュニケーションの本質を見極めるための研究に力を入れてゆきたいと考えています。

1990年11月

杉田 敏

も く じ

第 1 部	ジョークの人気投票	1
	アメリカ人はどんなジョークに笑うのか	3

第 2 部	ジョークのカテゴリー	31
-------	------------	----

第 1 章	Silly Jokes	33
	無邪気に笑える「ばかげたジョーク」	

心ここにあらず	33
無邪気な子どもたち	35
二種類の「おとぎ話」	38
「うちの息子ときたら……」	40
仕事の資格は	42
女優	44
楽観主義者と悲観主義者	45
株式大暴落	47
「毛むくじゃらな犬」のお話	51

第 2 章	Wordplay Jokes	56
	「しゃれ」と「ことばのあや」	

通じないジョーク	57
ことわざのひねり	59
イディオムをもじると	62

ピサの斜塔に時計を 63
 学業成績 68
 学生に部屋を貸す場合は 70
 「おへその専門の外科医」 72
 冬はフロリダで、春はブロンド女性と 75
 聞き違い、言い違い 77
 こりやまさに、やらずぶったくり 79
 ブリーフはどこに 81
 いやになるのも「病氣」 83
 ほらサンドが食べたいな 85

第 3 章 Hostile Jokes 87

攻撃的、自虐的なジョーク

姑のいなかったのはアダムだけ 87
 「哀れ」なのはどちら 89
 「全国愛妻家協会」 91
 亭主の得意な第 2 バイオリン 93
 2 位は夫婦同伴でご招待 95
 シック・ジョーク 97
 「天にましますわれらの父よ」 99
 政治屋と政治家の違いは 101
 秘書に嫌われる法 104

第 4 章 Ethnic Jokes 109

人種のるつぼの中の民族ジョーク

代表的「おろか民族」ポーランド人 111
 数ってどうやって数えるの 113
 トヨタと結婚したポーランド人 115
 法王とポーリッシュ・ジョーク 117
 どっちもどっちのイタリア人 118
 徹底した合理的ケチのユダヤ人 121

ユダヤ商法ここにあり	124
ユダヤ人と比べると	126
ひと味ちがったケチのスコットランド人	128
ただの酒飲みではないスコットランド人	130
大酒飲みのアイルランド人	132
為政者とソビエトの政治ジョーク	134
黒人、インド人、ブラジル人は……	138
ジョークの中の日本人	142

第5章 Sexual Jokes 145

最も人気のあるセクシー・ジョーク

何にでも使える多目的語	148
相手が悪い	151
父の嘆き	153
ゲイの新しい「人権宣言」	155
舌足らずがそのあかし	157
コックローチはダメよ	161
「それ」と「それら」の違い	164
失望のグランプリ	168
モノは使いよう	171
レタスにミルクにウインナ	174
名前の由来	176
不肖の息子	178
「女」を意味する4文字の単語	181
穴ちがい	185
カーター大統領も使った「ケツ」	187
セックスとだます	188
サイレントP	190
虚人の棺桶	192
ゴシップの王女	195
巨万の富を生む秘書嬢、落とし難し	197

第 1 部

ジョークの人気投票

アメリカ人はどんなジョークに 笑うのか

ユーモアの本場アメリカで、かつてジョークの「人気投票」が行われたことがあります。

Psychology Today という心理学関係の有力月刊誌が、30の典型的なアメリカン・ジョークに対する読者の反応を、アンケートの回答に基づき分析したものです。もちろん、一回のアンケート調査でユーモアの本質のすべてを解きあかすことはできませんが、アメリカ人がどのようなジョークに笑っているかを理解するカギにはなるかも知れません。

では、その30のジョークを、皆さんも *Psychology Today* の読者と同じように、1（全然面白くない）から 5（非常に面白い）までの尺度を使って評価してみてください。私の解説を読む前と後で、その評価がどう異なったかをチェックするのも興味深いと思います。

* * *

What's So Funny?

1

Not at all funny

Very funny

1 2 3 4 5

An idealistic young high school teacher is watching his class take their first true-false test when he notices a young man in the back of the room flipping a coin before each answer. "What are you doing?" he asked the student.

"I'm taking the test. Heads is true and tails is false."

The teacher is upset but being a liberal he believes that every student has the right to take the test in any way that he wants. At the end of the period, as he's collecting the exam, he sees the kid in the back of the room furiously flipping the coin and staring at his paper.

"What are you doing?" asked the teacher. "The test is over."

"I'm checking my answers."

＜解説＞ 理想主義的思想をもったある若い高校教師が、クラス最初の○×テストを監視していると、教室の後ろの方でひとつひとつの答えを書く前にコインを投げ上げている生徒がいるのに気がつきました。「何をしているのかね」と教師はその生徒に尋ねました。

「テストを受けています。表なら○、裏なら×にしています」

教師は気を悪くしましたが、自由主義者なので生徒は自分の好きな方法でテストを受ける権利があると考えました。その時間が終了し、テスト用紙を集めていると、その生徒が後ろの方

で夢中でコインを投げ上げてはテスト用紙をにらんでいるのを見つけました。「何をしているのだ」と先生。「テストは終わったよ」

「答え合わせをしているのです」

- ・ true-false test ○×テスト
- ・ flip a coin コインを投げ上げる
- ・ heads (コインの) 表
- ・ tails (コインの) 裏

2

Not at all funny

Very funny

1 2 3 4 5

Two elderly matrons were riding the weekday afternoon train back to the suburbs. “What did you do in Boston?” One asked the other.

“I went to get scrod.”

“So did I, dear,” the first matron whispered conspiratorially, “but I didn’t know that was the past tense.”

〈解説〉 二人の年配の婦人が週日の午後の汽車で郊外に帰るところでした。「ボストンでは何をなさったの」とひとりの婦人が相手に尋ねました。

「タラを買いに行って来たのよ」

「まあ、私もよ」と最初の婦人がいわくありげにささやきました。「でも、それが過去形だとは知らなかったわ」

- ・ matron 品位のある既婚婦人
- ・ conspiratorially (「陰謀を企てる」の conspire から) 陰謀があるように

《get screwed [skru:d] というのは、俗語で「セックスをする」という意味です。相手が get scrod [skrad] (タラの幼魚を手

入れる)と言ったのを「自分と同じ目的で(つまりセックスをするために)ボストンに行った」と勝手に解釈してしまい、「でも screw の過去形が scrod だとは知らなかったわ」とのたまわったというのです。》

3	Not at all funny	Very funny
	1 2 3 4 5	

After the motorist ran over a small dog, he rushed over to speak to the distinguished-looking woman whose dog it was.
 “Ma’am, I will replace your animal.”

“Sir, you flatter yourself.”

〈解説〉 ドライバーが子犬を轢いた後で、その飼い主の気品のある婦人に駆け寄り「奥様……」

「あなた、うぬぼれないでよ」

・ flatter oneself うぬぼれる、いい気になる

《問題は、ドライバーの言った “Ma’am, I will replace your animal.” ということばです。「奥様、私があなたの子犬 (your animal) の代わりを見つけます」という意味で言ったのですが、相手は replace のもうひとつの意味である「～に取って代わる、代わりになる」と解釈してしまい、「うぬぼれるのもほどほどにおし。おまえなんかが、うちのワンちゃんの代わりになるものですか」と言ったのです。》

4	Not at all funny	Very funny
	1 2 3 4 5	

“Is this the Salvation Army?”

“Yes.”

“Do you save bad women?”

“Yes.”

“Well, save me three for Saturday night.”

〈解説〉 「そちらは救世軍ですか」

「そうです」

「悪い女性たちを救いますか」

「はい」

「それでは、土曜の夜に3人を save しておいてください」

・ Salvation Army 救世軍

《これは電話の会話です。save には、「救う」と「取っておく」の二重の意味がありますから、救世軍に電話をかけた人は、「(品行の悪い女性つまり売春婦と遊びたいので) 土曜日の夜、3人ばかり取っておいてくれ」と言ってからかったのです。》

5

Not at all funny

Very funny

1 2 3 4 5

The neighbors say the baby is spoiled rotten—but I think all babies smell like that.

〈解説〉 近所ではその赤ちゃんは甘やかされて駄目になっていると言いますが、どこの赤ん坊も同じにおいがすると思いますけど。

《spoiled rotten は、「甘やかされて行儀や態度などが悪い」という意味ですが、「腐敗して臭い、不潔な」ともとれます。そこで「どこの赤ん坊も同じように臭いにおいがしますよ」と続いています。》

6

Not at all funny

Very funny

1 2 3 4 5

How do Polish dogs get bumps on their heads?
From chasing parked cars.

〈解説〉 「ポーランドの犬はどうして頭にコブがあるの」
「停まっている車を追いかけるからだよ」
《走ってくる車を追いかけた犬が頭にコブをつくることはあっても、停まっている車を……というのは、どうしたことでしょう。これは典型的な Polish joke です。「間抜けなポーランド人」からの連想でこんなジョークが生まれました。》

7

Not at all funny

Very funny

1 2 3 4 5

The new teacher was giving her first sex-education lecture to a group of 10th-graders. "There are eight basic positions for sexual intercourse," she began nervously.

"Nine," offered a voice from the back of the room.

Flustered, she began again. "There are eight basic positions for sexual intercourse."

"Nine," insisted the voice.

This time, she decided to ignore the interruption. "The first is called the missionary position, with the man on top of the woman and facing her."

"Oh," interrupted the voice again. "Ten."

〈解説〉 新任の女性教師が高校1年生に、初めて性教育の講義をしていました。「性交には8つの基本体位があります」と、彼女は神経質そうに話し始めました。

「9つです」教室の後ろから声がかかりました。

その声に面食らいながらも、彼女はもう一度スタートしました。「性交には8つの基本体位があります」

「9つです」その声は譲りませんでした。

今度は、妨害を無視することになりました。「最初の体位は正上位と言われ、男性が女性の上になり、向き合う姿勢です」

「オー」。その声が再び妨害しました。「10です」

・ fluster 面食らわせる (くらう), 騒がす (騒ぐ)

・ missionary position 正上位

《「先生なんかよりオレの方が経験もあるし、よく知っているんだから。正上位なんていう、初歩的で退屈な体位なんか基本体位の中にも入らないよ。でももしそれを入れるんだったら、10さ」ということです。》

8

Not at all funny

Very funny

1 2 3 4 5

What do you call people who use the rhythm method for birth control?

Parents.

〈解説〉 「リズム・メソッドを使う人たちをなんと呼びますか」
「親です」

・ rhythm method 妊娠の可能性の最も高い期間に性交を避ける避妊法, いわゆる「荻野式」

《リズム・メソッドは、失敗率が高いので、避妊をしているつもりで、「親」になってしまうということ。》